

新大病院たより

和

第46号

(標題：中野雄一 元病院長)

新潟県内における院内感染対策ネットワークについて

毎年のようにインフルエンザウイルスやノロウイルスによる感染症の流行が繰り返されるなど、感染症への対応は医療機関のみならず、一般社会、あるいは家庭内においてもその重要性がかなり認知されてきているかと思えます。手洗い、マスク着用の励行といった対策は病院スタッフのみならず患者、患者家族のみなさまにも病院内でご協力をいただいております。さらに医療機関では上記のような流行性疾患の対策の他に、多くの抗菌薬に抵抗性を獲得したいわゆる多剤耐性菌の広がりや耐性菌による院内感染症の発生を防がなければなりません。

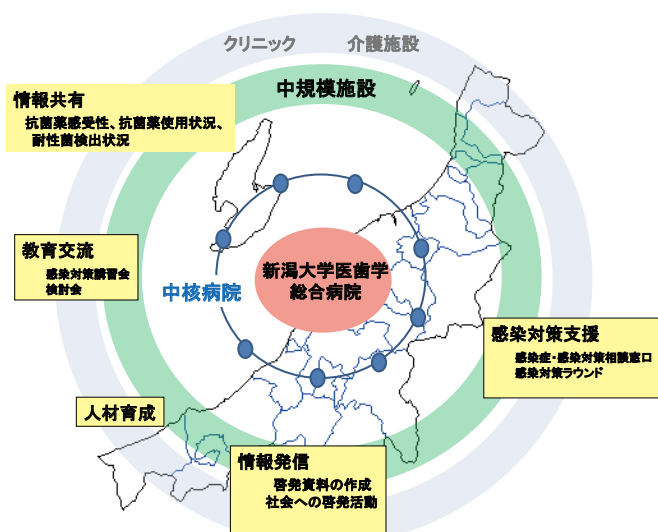
当院では感染管理部という部門が2003年に組織され院内感染対策活動をしてきました。また、同様の活動をする部門は新潟県内の多くの施設でも組織され、それぞれの施設で自施設の状況に即した院内感染対策を実践しております。

しかし、近年、各医療機関で独自に活動を行っていただけでは耐性菌の広がりを防ぐのに不十分であると考えられるようになってきています。また、ある程度院内感染対策活動がすすんでいる施設とまだ組織されて日が浅く経験が不足している施設など施設間の差もみられております。そこで各地域において施設間で感染対策を補助し合う活動がおこなわれるようになってきました。

このような状況の中で、新潟大学医歯学総合病院が中心となり新潟県内をひろく網羅して院内感染対策の質的向上をはかることを目指し「新潟医療関連感染制御コンソーシアム (Consortium against Health care Associated Infection in Niigata: CHAIN)」という組織を立ち上げ当院の感染管理部内に事務局をおき活動しております。

まだ、CHAINとしての連携は始まったばかりですが、それぞれの施設の現状を把握しながら少しずつ連携を深めていけるよう取り組んでおります。将来的には介護施設や一般クリニックを含めてより多くの施設との連携を広げていきたいと考えています。

(感染管理部 副部長 田邊 嘉也)



本院の理念・目標

◆ 理念 ◆

- ・生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します

◆ 目標 ◆

- ・患者本位の安全で安心できる医療を提供します
- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
- ・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
- ・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
- ・病院運営の適正化と効率化を促進します

患者の権利と責任

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
4. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報は保護されます
5. 医療者と協力し、自らの医療に積極的に参加する責任があります

外来診療棟エントランス階にピアノがお目見え、 心温まる音色とともに ～院内コンサートを開催しました～

このたび当院では、本学の卒業生である 柳本雄司 様（1963年人文学部卒業）から新潟大学基金への多額のご寄附をもとにグランドピアノを購入し、患者さんに安らぎのひとときをお届けするため、2013年8月より、外来エントランスホールにおきまして定期的な院内コンサートを始めました。

これまでに、グランドピアノお披露目コンサート（8月）、アーリー・オータムコンサート（9月）、クリスマスコンサート（12月）、管弦楽の調べ（2014年2月）、の4回のコンサートを行ってきました。毎回、入院患者さんを中心に 100名を超える患者さんご家族、病院職員の皆さんに聞いてもらい、心温まるコメントを多数いただいております。

病院職員としては、産科婦人科の榎本隆之教授と医療情報部の私がコンサートに参加しました。榎本教授はピアニストとして、モーツァルトやベートーベンのヴァイオリンソナタ、エルガーの愛の挨拶、フォーレのシチリアーノなどのクラシック曲を、素晴らしい演奏技術で披露されました。特に、イタリアで活躍中のプロ・ヴァイオリニストとの共演は患者さんに大きな感動を与えました。私は、柔らかな音色のオカリナ（陶器の楽器、イタリア語で「小さなガチョウ」の意）で参加しました。ボランティア参加の患者さん、プロのソプラノ歌手、ピアニストと共演し、童謡や唱歌、ジブリ映画の主題歌、おなじみのクリスマスソングなどを演奏させていただきました。

これからもこの院内コンサートを続けてまいりたいと思います。本院でつらい治療に耐えながら闘病生活を送ってられる患者さんに、少しでも癒しの場となるよう努力して参ります。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。なお、院内コンサートの出演者とお手伝い下さる方を探しております。ご希望の方は病院総務課（025-227-2408）までご一報ください。

（院内行事実施検討部会 部長 赤澤宏平）



中央診療施設紹介 ⑮

集中治療部

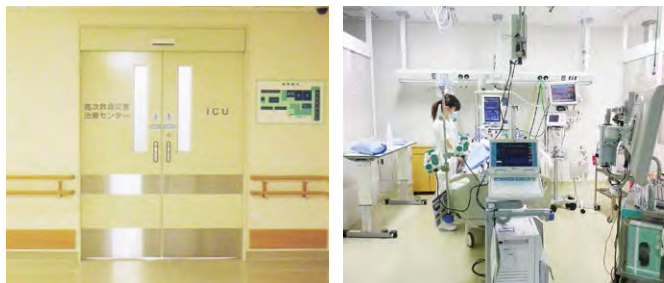
集中治療部は、しばしば、その英語名の略号をとってICU (Intensive Care Unit) と呼ばれています。集中治療部は、呼吸、循環、代謝、神経などの重症な急性機能不全に陥った患者さんに対して24時間体制の集中管理により、効果的な治療を行うことを目的としています。また、大きな手術や合併症を有する患者さんが、術後病態が安定して一般病棟に戻れるまで、集中治療部に入室することもあります。

このため、集中治療部では心電図、血圧、呼吸数、体温、動脈血酸素飽和度などの生体情報は常時モニタされ、急変時には、直ちに医師と看護師が協力して対応しています。また、エコー、脳波計、血液ガス分析装置などの診断装置や人工呼吸器、血液浄化装置、体外循環装置、体温調節装置などの補助装置は何時でも使用可能な状態になっています。更に、マンパワーは、夜間でも専従医師1名以上の常駐、看護師1名が2人の患者さんに対応する2:1看護体制をとっており、病院の中で一番充実した体制となっています。また、集中治療に特化した医療情報システムも導入され、生体情報は1分間隔で記録保存、輸液や投薬等の指示はコンピュータで管理されています。

集中治療部は、急性期の重症な患者さんは、専用の病棟で専従の医師と看護師が対応したほうがより効果的であるという考えから、1950年代にヨーロッパで誕生、我が国では1960年代に導入されています。このような背景から、集中治療部は診療科に属さず、病院の中央診療部門として設置されています。

当院では、1990年1月に4床で開設、1996年には6床となっています。2010年の高次救命災害治療センター（救命救急センター）の稼働以来、集中治療部は中央診療棟4階で救命救急センターと同一のフロア内で運営されています。

(集中治療部 部長 遠藤 裕)



手術支援ロボット「ダヴィンチSi」導入で手術の新時代到来

2014年2月から当院で手術支援ロボット「ダヴィンチSi」を導入しています。ダヴィンチSiはアメリカで開発された最新鋭の内視鏡手術支援ロボットです。ロボットといっても、人のような形をしていたり、医師の代わりに手術を自動で行ったりするわけではありません。医師がロボットを遠隔操作して手術を行います。ダヴィンチを用いた手術は、これまでの腹腔鏡手術にロボットの機能を組み合わせて発展させた手術で、腹腔鏡手術の精度を上げる先進の手術です。ダヴィンチSiは鮮明な3D画像、術者の操作を正確に伝えるコントローラと精密な操作を可能にする鉗子類が特徴です。ダヴィンチSiはロボット本体と操作台、助手用のモニターなどで構成され、ロボット本体には3本のアームと1本の内視鏡用3Dカメラが装着されています。術者はケーブルでつながった操作台に座り、中に映し出される患部の3D画像を見ながらアームを操り、患部の切除や縫合を行います。ダヴィンチを用いた手術は、腹腔鏡手術と同様に患者さんの体に小さな穴を開けて行う、傷口が小さい手術です。開腹手術に比べて、手術中の出血量が少ない、手術後の疼痛が軽減できる、合併症リスクを回避できるといったメリットがあります。

手術が必要となるすべての疾患で、ダヴィンチによる手術が行えるわけではありません。ダヴィンチを導入している施設では、泌尿器科や一般消化器外科、胸部外科、婦人科などで使用されています。当院では、当面、前立腺がんに対する前立腺全摘出術を対象とします。その他の疾患については順次対応していきたいと考えています。2012年の4月より、ダヴィンチによる前立腺全摘出術が健康保険の適用となりました。その他の疾患については、今のところ保険適用はありません。手術支援ロボットを用いれば、将来的には当院の手術室にいる術者が他病院の手術室にいる患者を手術する遠隔手術も可能ですので、外科医不足の解消の一助にもなる可能性を秘めています。

(泌尿器科 准教授 西山 勉)





病気の基礎知識 16 「糖尿病教室」

糖尿病を始めとする生活習慣病を抱える患者さんが増えており、特に糖尿病は、いわゆる予備軍を含めると中年以上の国民3人に一人に達します。糖尿病という病名はよく知られていますが、「糖尿病について十分な知識を持っている」と自信を持って言える方は、患者さんも含めて少ないのではないのでしょうか。糖尿病はしっかり管理しないと、失明や腎透析、心臓病、脳卒中などの合併症を起こしやすくなります。しかし、たとえ糖尿病を発症しても、血糖値などを良い状態に保っておくことで、合併症の悪化を防ぐことが可能です。

そこで私達は、糖尿病だけでなく肥満、高血圧、脂質異常症、痛風などの生活習慣病も含めて、病気を知っていただく場として「糖尿病・生活習慣病教室」を原則として平日は毎日開催しています。もちろん無料です。

特徴としては、

- ① 1サイクル2週間で、10テーマの話により構成されています。(スケジュールと内容は下記のとおり)
- ② 予約不要で、15時までに(「運動療法」の回のみ15時30分)内科外来にお越しいただき、受付に教室参加の旨を伝えていただければ御案内します。
- ③ 連日参加が義務ではなく、興味がある(自分の病気に該当する)部分だけでも結構です。
- ④ 当院の患者さんだけでなく御家族を含め、どなたでも参加可能です。

講師は、当院の内科医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など各分野の専門家が分担しています。

正確な知識を身につけて、糖尿病や生活習慣病に上手に立ち向かうことで合併症の悪化を防ぎ、健康で長生きを実現しましょう。皆様のご参加をお待ちしています。

(内分泌・代謝内科 医員 皆川 真一)
教授 曾根 博仁)

スケジュール

1 週目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
15:00～	①糖尿病とは	②合併症と治療	③食事療法	④糖尿病と歯周病	⑤血糖、HbA1c などについて
2 週目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
15:00～	⑥薬物治療		⑧慢性腎臓病について	⑨食事療法	⑩フットケア・シックデイについて
15:30～		⑦運動療法			

4 月						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7 ①	8 ②	9 ③	10 ④	11 ⑤	12	13
14 ⑥	15 ⑦	16 ⑧	17 ⑨	18 ⑩	19	20
21 ①	22 ②	23 ③	24 ④	25 ⑤	26	27
28 ⑥	29	30 ⑧				

スケジュールの数字とカレンダーの数字が対応し、当日の内容が分かります。

例：4月10日→カレンダーの数字は④なので、内容は糖尿病と歯周病となります。



新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ
(<http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/about/koho.php>) をご覧ください。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)